

議会改革特別委員会 行政視察報告書

1 日程

令和4年11月10日（木）～11月11日（金）

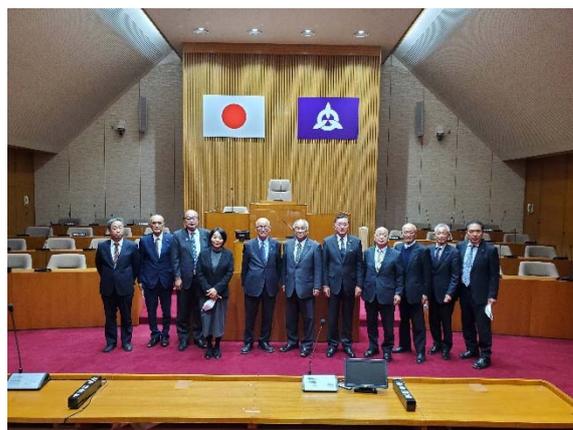
2 視察先・視察内容

1日目 茨城県阿見町議会 議会改革について

2日目 「地方議会活性化シンポジウム 2022」総務省主催「イイノホール」

3 視察委員

- 委員 長 森永 和夫
- 副委員 長 塩川 まゆみ
- 委員 山崎 正史
- 泉 浩壽
- 久保 美博
- 向井 一富
- 議 長 菊地 幸雄



4 視察報告

茨城県阿見町（あみまち）

●人口：49,716人（21,444世帯） 面積：71.40km²

[2022年12月1日現在]

東京から60km、成田空港から30kmの県南部に位置し、農工業共に盛ん。人口は増加傾向にあり、市制施行も視野に入れたまちづくりを進めている。

阿見町議会は、平成27年12月の議会基本条例の制定以降、

●本会議のインターネット中継開始

●タブレット端末の導入と完全ペーパーレス化

●議会改革アドバイザー制度の導入

※隣接する取手市の議会事務局次長をアドバイザーとして招聘（取手市議会は議会改革において先進的な議会として高い評価を受けている）、研修や学習会などを通じて議員や議会事務局職員の資質向上に努める。

●議会モニター制度の導入

●オンライン委員会を可能とする条例改正

など、次々と改革を進めてきた。その成果が評価され、2022年の第17回マニフェスト大賞（地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上

に資する優れた取り組みを募集し、表彰するもの。マニフェスト大賞実行委員会主催、早稲田大学マニフェスト研究所・毎日新聞社共催)において「躍進賞・優秀賞」を受賞している。

内子町議会でも採用したいと考えていた以下のようなことがすでに実践されており、大変に参考になった。

- 本会議だけではなく委員会（予算決算特別委員会のみ、今後他の委員会にも拡充予定）もインターネットで配信
- 個別のタブレット研修を充実し、各議員が動画撮影や配信できる等スキルが向上
- 予算についても「予算執行に関する決議案」として要請事項を議会として明確化
- 事業評価を「提言書」という形で町長に提出
- 年に2回の「議会報告会」実施
- 会議の傍聴/視聴、議会だよりや議会ホームページなどへの意見提出を求める「議会モニター」を設置



これらの改革の成果として、議員間討議や討論が増加した、議案調査や所管事務調査を以前よりも時間をかけて深く行うようになったなど、明らかな議会力の向上が見られたとのこと。それでも、全国の町村議会の課題となっている「議員のなり手不足」問題があり、定数や報酬の見直しについても検討しているとのことだった（阿見町議会の議員報酬額：31万3千円）。

総務省主催「地方議会活性化シンポジウム 2022」

東京都千代田区内幸町（イイノホール）

基調講演：「多様な人材が参画する地方議会の実現に向けて」

（勢一智子・西南学院大学法学部教授）

パネルディスカッション：「地方議会をより開かれたものへ～多様な人材の参画に向けた取り組み～」



- ・福岡県議会議員
- ・千葉県船橋市議会議員
- ・山形県遊佐町教育委員会（2名）
- ・一般社団法人 WOMAN SHIFT 代表の5名

ハラスメント防止条例制定、デジタル技術を活用した住民参加の取り組み、山形県遊佐町「少年町長・少年議員公選事業」、若手女性議員のネットワーク&ママの議員インターンの取り組みなど、各パネラーからの報告お

よびディスカッションは大変示唆に富むもので、大いに刺激を受けた。内子町議会でも取り組んでいきたいことへのヒントをたくさんもらった。

5 委員所感

目次	森永 和夫	委員長	4～6 ページ
	山崎 正史	委員	7 ページ
	泉 浩壽	委員	8 ページ
	久保 美博	委員	9 ページ
	向井 一富	委員	10～12 ページ

<森永和夫委員長>

内子町議会改革特別委員会視察報告

視察日（一日目） 令和4年11月10日

視察先 茨城県阿見町議会

目的 議会改革の取り組みについて

対応者 平岡 博議長 吉田憲市議会改革等調査研究特別委員長
久保谷みつる議会運営委員長 他議会事務局職員

視察報告

阿見町議会の取り組みで私が注目したのは、①オンライン会議 ②動画配信 ③決算審査を予算編成に活かす議会。

まず、

①オンライン会議－災害の発生、感染症のまん延等、やむを得ない理由により委員会を開催する場所への出席が困難な場合、オンライン会議システムを活用した会議を開くことを可能とした。（阿見町議会委員会条例・阿見町議会会議規則の一部改正）

*このことは、近年多発する豪雨災害、大型化する台風、近い将来発生すると言われる南海トラフ大地震などに対応するためにもオンライン会議の必要性を感じる。内子町議会ではタブレットの導入はすでに実施されており、実現に向け協議したい。

②動画配信－通学路の危険個所を動画撮影し配信、予算決算特別委員会のライブ配信・録画配信などに取り組み、編集作業も研修を重ね議員自ら行う。

*議会が積極的に情報を発信することは、町民の皆さんの議会に関心をもってもらうためにも必要と考える。12月議会から議場にテレビカメラを設置し、本会議の様態を、本庁・分庁・小田支所のロビーにてリアルタイムで傍聴できるようになるが、このシステムをさらに活用して、YouTube 配信、各委員会のライブ配信等にも取り組んでいきたい。

③決算審査を予算編成に活かす議会－決算認定では、決算を次年度以降の予算に反映させるため、重点事業を選定し、事務事業調査を行い、調査した結果を事業評価シート作成し、提言書として執行部に提出する。

*決算審査の結果を踏まえ事業評価をし、議会として次年度の予算に生かすことは最も重要な役割と考える。事業評価シート等参考にすべき点はあると思う。昨年度より有志議員による政策提言など予算編成前に各項目別にまとめ町長に提出をしているが、さらに進化させる必要があると感じている。出来れば、議会として取り組むべきと考える。それが、二元代表制の一方の担い手としての議会の責務である。

視察日（二日目） 令和4年11月11日

視察先 地方議会活性化シンポジウム2022 主催：総務省（イイノホール）

目的 地方議会活性化について

視察報告

*今回、総務省自治行政局行政課の藤本課長補佐のお計らいで、シンポジウムへの参加が出来た。まず、勢一智子・西南学院大学法学部教授の、「多様な人材が参画する地方議会の実現に向けて」の基調講演があり、多様な人材の参画を前提とする議会運営・住民に開かれた議会の為の取り組み・人口減少における地方議会などこれまでの取り組み、これからのなすべきことなど大変有意義なものであった。内子町議会でも、育児、介護などの議会への欠席事由を整備するとともに、出産についても母性保護の観点から欠席期間を規定する会議規則の改正、旧姓使用取扱要綱制定、子ども連れなど子育て世代の方も傍聴しやすいよう、保護者同伴の場合は傍聴可能とする傍聴規則の改正など取り組んできた。しかし、今後、住民に対する情報発信（SNSの活用・議会だよりの工夫・障害者に配慮した議会中継など）の多様化の検討が必要と感じた。

また、議員のなり手不足・住民とのコミュニケーションの充実など早急に取り組む必要性を感じた。

次に、「地方議会をより開かれたものへ～多様な人材の参画に向けた取り組み～」をテーマに、勢一教授をコーディネーター、福岡県議会議員・船橋市議会議員・山形県遊佐町教育委員会（2名）・一般社団法人WOMAN SHIFT代表の5名によるパネルディスカッションを視察する。

①福岡県議会議員－「福岡県における議会関係ハラスメントを根絶する条例」について

*「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の一部改正され、性的な言動等（セクハラ・マタハラ等）に起因する問題への対応が新設されたことにより地方公共団体は、この問題を解決するため、発生の防止のための研修の実施、相談体制の整備その他の必要な施策を講じなければならなくなった。このことは、今、有志議員間でも条例の制定を目指すべきとの意見もあり協議することになる。

注；政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

（性的な言動等に起因する問題への対応）

第九条 国及び地方公共団体は、政治分野における男女共同参画の推進に資するよう、公選による公職等にある者及び公職の候補者について、性的な言動、妊娠又は出産に関する言動等に起因する問題の発生の防止を図るとともに、当該問題の適切な解決を図るため、当該問題の発生の防止に資する研修の実施、当該問題に係る相談体制の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

②船橋市議会議員からは－「デジタル技術を活用した住民参加推進の取り組みについて」

*船橋市議会では、議会を身近に知ってもらうため、小学生・中学生・高校生を対象に、対面及びオンラインでの議会見学・意見交換会を実施しており、詳細な説明があった。子どもの頃から政治に参加するという意識を高めることは大切で、自分たちのまちをよりよいまちにするためにはどうすればいいか考える機会になったとのこと。内子町でも、小学生低学年の議場見学はあるが、今後、中学生・

高校生にもそのような機会をつくればと考える。

③山形県遊佐町教育委員会－「若者の力で、遊佐の未来をつくる～遊佐町少年町長・少年議員公選事業～」

*以前、なにかでこの取り組みのことは承知をしていたので、今回のパネルディスカッションで一番興味を持って聞かせてもらった。この取り組みは、2003年に若者の意見を活かすことの重要性を感じていた当時の町長の発案で始まったとのこと。特徴的なのは、少年町長、少年議員（10名）を町内在住・在学の中高生（592名）全員の投票で選出し、独自の政策予算45万円を持つということです。説明会から投票、開票、当選証書交付、三回の少年議会には、町長以下全課長が出席し、所信表明・一般質問・政策提言・議会報告会など充実した内容に驚きました。この少年議会が提言し実現したものには、町のイメージキャラクター「米（べ）～ちゃん」や、電車の時間変更、街灯・防雪柵の設置などがあるとのこと。事業の効果として、町に関心を持つようになった・自信と責任が生まれた・地域のリーダーが育ち始めたなど。行政では、若者の提言を、町議会と同等の重みを持って受け止めているとのこと。

内子でも、例えば、女性議会・青年議会・子ども議会などを通じて、まちへの関心の高まりや幅広い層からの提言等まちづくりに活かせるような取り組みの必要性を改めて感じた。また、そういった活動を通して将来議員に立候補する人が出れば、なり手不足の解消にもなるのではと考える。

④一般社団法人 WOMAN SHIFT 代表－「若手女性議員のネットワーク&ママの議員インターン」

*この団体は、「届きづらい女性の声を政治につなぎ、1つずつ実現していく」ことをミッションに活動しており、議会の暗黙のルールを学びあうワークショップの開催やハラスメントへの対応・役所の職員との関わりなどオンラインで実施されている。

内子町議会でも女性議員は一名と少ない。議員が地域代表的な内子町ではなかなか女性が立候補するにはハードルが高いかもしれない。

いかにして女性の声が届き、女性が議員として政治に参加する社会を創るか、我々議会そして行政、町民が一体となって答を導き出す必要があるのではと考える。

＜山崎正史委員＞

茨城県阿見町は、東京・水戸・成田空港への交通アクセスに恵まれた町であると共に、平均海拔 21m と平坦な地形で、積雪も少なく穏やかな気候に恵まれた自然災害の少ない町である。それを背景に、近年急速に都市化と人口増が進み、近い将来 5 万人を超えることが予想され、市制施行を見据えたまちづくりが町民・行政一体となって展開されている。

そのような中、議会も意欲的に議会改革を進めている。平成 27 年 12 月に議会基本条例の制定を皮切りに、令和元年本会議の中継開始、令和 2 年タブレット端末導入、令和 3 年完全ペーパーレス、令和 4 年議会モニター制度など、年を刻むごと議会改革を取り組んでいる。特筆すべきは、他の行政地域の職員の方を議会改革アドバイザーとして委嘱し、助言提言をもらいながら議会内において活発に議論し、議会改革を短時間で大きく前進させた。同時にタブレット端末の操作に不慣れな議員には、若い議員、操作に秀でた議員が指導するなどして、全ての議員が操作できるよう努力を進めたそうである。様々な議会改革を進める中、議会基本条例で「議会は、議会報告会を年一回以上開催し、町民との相互理解を図るものとする。」に基づき、平成 30 年 11 月以降、年 2 回開催しているが、年が経つにつれ一般参加者が減少傾向にあるようである。

どこの町民も同じように、一部の人を除いて、大多数の住民の行政、議会に対する関心度が低下していると思われる。われわれ議会は、住民の行政・議会への関心度をどのようにあげていくのかが一番の改革課題かもしれない。

＜泉 浩壽委員＞

茨城県の県南地域に位置する温暖な気候と水資源豊富で肥沃な土地に恵まれた阿見町。人口約 48,000 人で、関東で最も人口の多い町にもかかわらず議員のなり手不足は大きな問題となっている。議員報酬額は 313,000 円と我が内子町より 100,000 円以上も高いが、それでも報酬額が低いことがなり手不足、後継者不測の一因であるとのこと。議員活動が活発なことが覗われる。

また、阿見町に隣接した取手市の取手市議会事務局次長である 岩崎弘宣氏 を阿見町議会アドバイザーとして招聘し、毎月様々なテーマで研修会を開いて学習するなど、あらゆる角度から物事を判断できる様な部署を議会全体が一致の上設置に至り、その研修により理解を深め、個々の意識も高まり、議員・職員の資質向上に繋がっている点が注目することである。

＜久保 美博委員＞

阿見町議会、平岡議長より歓迎あいさつをいただき、議会改革取り組みについて、阿見町議会基本条例を平成 27 年 12 月 22 日に制定し、本会議のインターネット中継や全員協議会の公開、議会報告会の開催、タブレットの導入と、多くの改革に取り組み、議会活動、議員活動について、基本条例に定めてある条項の見直しを行うため、議会改革等調査研究特別委員会を設置、議員報酬及び費用弁償や政務活動費に関すること、その他基本条例に定めてある条項の見直しを行うための調査研究等をしているとあり、議会改革の取り組みについて説明を受ける。

最初に課題の洗い出しを行い、39 目の課題があり、専門的な方にアドバイスをいただき進めたほうが良いと意見があり、取手市議会事務局次長の岩崎氏にアドバイザーに就任いただき、さらに議会改革が加速した。予算決算特別委員会のネット配信、議会モニター制度の導入、現在は議員報酬の見直し、政務活動費の交付について調査検討している。

令和元年 9 月議会から定例会と臨時会のネット配信、タブレットを導入し、ペーパーレス化へと進めている状況で積極的に取り組んでおられ、当議会も課題を洗い出し取り組むべきと思う。

2 日目は、地方議会活性化シンポジウム 2022 があり、基調講演のあと、パネルディスカッションで「地方議会をより開かれたものへ～多様な人材の参画に向けた取り組み」で、「福岡県における議会関係ハラスメントを根絶するための条例」制定への発表があり、当議会もハラスメント条例の制定には早急に検討すべきと思ひ意義のある研修であった。

＜向井 一富委員＞

内子町議会改革特別委員会は、内子町議会の改革を目指すための先進事例視察を茨城県阿見町の議会改革の先進事例を一泊二日の行程により視察研修を実施した。行政マニフェスト大賞にも選ばれ議会改革に先進的な議会だという事で選定した。第17回マニフェスト大賞（主催マニフェスト大賞実行委員会）にて、過去最多となる応募総数 3,133 件から優秀賞 40 件に選ばれ、その中で、阿見町議会・阿見町議会事務局が、「躍進賞 優秀賞」を受賞された。その大賞への阿見町議会・阿見町議会事務局の応募概要は、令和2年9月に議会改革等調査研究特別委員会を設置し、議会改革に取り組む中、令和3年4月より取手市議会事務局次長の岩崎弘宜氏に議会改革アドバイザーを委嘱し、助言・提言をいただきながら 議会内において活発に議論し、議会改革が短期間で大きく前進した。主な成果としては、議員研修による資質向上、議会災害対応規程の制定、オンライン会議の体制づくり、意見交換・議会モニター制度導入による住民参加の推進などを挙げられた。ちなみにマニフェスト大賞とは、主催者ホームページに掲載されている趣旨には、次のように記載されている。「マニフェスト大賞」は、地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し、表彰するもの。これにより、地域で努力を重ねる方々に荣誉を与え、さらなる意欲向上を期するとともに、優れた取り組みが広く知られ互いに競いあうようにまちづくりを進める「善政競争」の輪を拡げるために設けられた。主催は、マニフェスト大賞実行委員会 共催：早稲田大学マニフェスト研究所・毎日新聞社 後援：株式会社共同通信社 協力：公益財団法人明るい選挙推進協会・公益社団法人日本青年会議所などが主になって毎年開催されている。

この視察には、我々当委員会から6名事務局1名、阿見町議会からは、4名の議員さんと3名の事務局にて対応していただき、意見交換し丁寧に回答をいただいたので報告する。

＜質疑応答＞

質1：本会議、委員会のインターネットライブ配信状況と今後の活用予定について

答1：配信状況：定例会及び臨時会の本会議と、定例会期中の予算決算特別委員会
今後の活用予定：定例会期中の常任委員会

質2：ペーパーレス会議やチャットなどタブレットを議会運営にどのように活用しているか。

答2：ペーパーレス会議システム：more NOTE チャット：Logo チャット スケジュール管理：iPad カレンダーをフルに活用している。

質3：議会改革アドバイザー制度の具体的な内容について。

答3：議会改革アドバイザー設置要綱を設置して先進自治体の取手市議会事務局次長に就任していただきマニフェスト大賞 受賞事例等を用いて取り組んでいる。

質4：議会改革アドバイザーによる研修会の具体的なテーマ及び内容とその効果について

て。

答4: You Tube 配信や傍聴者を意識するようになった。議員間討議や討論が増えた。議案調査や所管事務調査を以前よりも時間をかけて深く行うようになった。

質5: 議会における災害時の対応方針と災害時の ICT の活用について。

答5: 阿見町議会災害対応規程により対策会議の会議は、座長が招集する。ただし、議場が被害を受け、参集して会議を行うことが困難であると議会が認めるときは、オンライン会議システムの情報通信技術を利用して、対策会議の会議を開催することができる。対策会議設置情報については、ロゴチャットや災害時伝言ダイヤル(171)で全議員に通知する

質6: 有事の際のオンライン会議について。

答6: 阿見町議会委員会条例及び、阿見町議会オンラインによる委員会開催要綱において取り決めどうしても出席できない場合において、オンラインで参加できるようになっている。

質7: タブレットを活用した議会活動の動画配信の状況について。

答7: 撮影した動画を編集するための研修会を重ね、また、視察や行事等で動画を撮影していますが、配信までには至っておりません。これまでの配信としては、昨年度に行った通学路の危険箇所調査についてと、新年のあいさつである。

質8: 議会として決算審査を予算編成に活かす具体的な調査・審査方法について。

答8: まず、調査対象事業を選定、議会報告者にて意見交換、調査対象事業決定、常任委員会にて調査、評価の順で取り組んでいる。

質9: 阿見町議会が議会改革を進める中で、議会及び議員への町民の関心度はどう変化した。

答9: 数値として測っているわけではないが、議会報告会で議員と直接話をする機会を作ることで、議会をより身近なものに感じたり、議会だよりをリニューアルし、幅広い世代の方に読んでもらえるようになり、以前より関心を持っていただけている。また、議会改革アドバイザー制度の取り組みは、新聞等のメディアに取り上げていただくことも多く、町民が目にする機会も増えている。

この研修を通じて、町民に開かれた議会町民とともに作り出す議会に向けて、日々努力研鑽されている阿見町議会の皆様に敬意を表するとともに、我々が見習えるところは多々あったように思う。

ICT 技術をフルに利用し随時議会報告会、勉強会を開きながら議員一人一人が力をつけて行くことと、町民の皆様の前に積極的に入り込み情報発信することで、民意をくみ取る努力等々しっかりと自分のものとして今後生かしていきたいと感じた。

< 地方議会活性化シンポジウム 2022 研修報告 >

場所 東京都千代田区イイノホール

日程 2022/11/11

地域の諸課題に対応するため、地方議会には地域の多様な民意を集約していくことが求められますが、投票率の低下や無投票当選の増加傾向の強まりに見られるように、地方議会に対する住民の十分な理解と関心が得られず、議員のなり手不足が生じている状況は深刻な問題である。納得感のある合意形成を進めていくためにも、多様な層の人材の参画を進めていくことが必要である。そこで、女性や若者などの参画や、デジタル技術の活用による議会への積極的な住民参加の促進を目的とした地方議会における取組事例を紹介するとともに、それらの取組の推進における課題等を共有することを主眼とし、多様な人材の地方議会への参画の実現に向けた議論を行うための標記シンポジウムに参加の報告をする。

最初に「地方議会をより開かれたものへ～多様な人材の参画に向けた取組～」と題して西南学院大学法学部教授 勢一智子先生より基調講演をいただいた。内容は表題の通り多様な意見を反映させるためには多様な人がまず政治に参画することが大事になってくるという事で、人口の推移や投票率の推移、地方議会の運営の実態等を細かく図式化して現状を説明頂き、議員への女性、若者、ジェンダー、子育てなどの問題をどう解決するかという事で、政策サポーター制度、議会モニター制度、まちなかカフェ DE 議会、模擬公聴会、女性模擬議会、少年議会 DX 時代の議会等様々な具体的な提案をいただいた。どれも納得のお話であり、少しでも取り組んでいけたらなと感じた。

その後、西南学院大学法学部教授勢一智子先生のコーディネートで、パネルディスカッションが行われた。パネリストは次のとおり、パネルディスカッションが行われた。

- ・福岡県議会議員吉村悠氏による福岡県における議会関係ハラスメントを根絶するための条例施行について
- ・千葉県船橋市議会議員渡辺賢次氏によるデジタル技術を活用した住民参加推進の取り組みについて
- ・山形県遊佐町教育委員会教育課齋藤浩一氏・風間雅文氏により、若者の力で遊佐の未来をつくる～遊佐町少年町長。少年議員公選事業～について
- ・WOMAN SHIFT 代表理事本目さよ氏により若手女性議員のネットワーク&ママの議員インターンについて

その発表をもとに参加しました各地方の議員さんとの意見交換でシンポジウムは終了。やはりそれぞれのパネラーの表題にもある今求められている諸課題をタイムリーに提案された素晴らしい規格のシンポジウムであった。子供、若者世代、様々な立場の人から政治に注目し、参画してほしいとの思いがひしひしと伝わるシンポジウムだった。それぞれの立場を理解し尊重しながら物事を進めていかないといけないし、それには日々の研鑽、強い信念、改革の想いをもって事に当たる。その信念が政治を変える、世の中を良い方向に変えることにつながることを確信した。今後の議員活動に生かしていきたいと感じた。有意義なシンポジウムだった。